

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
国際交流 International Activities		全学科	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
演習	2	必修	柴田 道信・呉 靱	
概要				
<p>文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的として海外研修を実施する。</p>				
到達目標				
<p>(1) 外国文化への興味・関心を持ち、文化的背景の異なる人々と適切な態度で交流できる。 (2) 文化的な世界観の枠組みについての知識を保有し、異文化との差異を理解できる。 (3) 異文化と適切に接するために、自分の持つ文化的規則や偏見を自覚している。 (4) 異文化を自分の世界観とは別の世界観で認識し、異文化に理解・共感を示すことができる。</p>				
授業内容とすすめ方				
【前期】担当：柴田 1 オリエンテーション 2 海外研修について 3 国際交流と異文化理解 4 グループワークについて 5 グループワーク（1）文化とは 6 グループワーク（2）日本文化 7 グループワーク（3）日本事情 8 グループワーク（4）コミュニケーション 9 グループワーク（5）価値観 10 まとめ		【後期】担当：柴田 1 1 オリエンテーション 1 2 外国調査（1）基礎情報 1 3 外国調査（2）文化、習慣、国内事情 1 4 海外研修と異文化理解 1 5 国際交流のまとめ ※上記15コマの授業の他に、海外研修（15コマ）を実施する。海外研修に参加できない学生には、異文化理解講座（担当：呉）の受講とレポート課題を課す。		
テキストおよび 参 考 文 献	適宜プリントを配布			
メ ッ セ ー ジ な	<p>学生時代に海外を訪れ、異文化を体験するということは、何事にも代え難い経験であり、その後の人生の大きな糧となります。皆さんが海外研修に参加されることを期待しています。</p>			

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 外国文化へ興味・関心を持ち、文化的背景の異なる人々と適切な態度で交流できる。	外国文化へ高い興味・関心を示し、意欲的に交流できる。	外国文化への興味・関心を持ち、積極的に交流できる。	外国文化への興味・関心は低いですが、最低限の交流はできる。	外国文化への興味・関心が低く、交流できていない。	授業の取り組み（関心・意欲・態度）	30%
(2) 文化的な世界観の枠組みについての知識を保有し、異文化との差異を理解できる。	洗練された理解を示している。	十分な理解を示している。	部分的な理解を示している。	表面的な理解にとどまる。	授業の取り組み（知識・理解）	30%
(3) 異文化と適切に接するために、自分の持つ文化的規則や偏見を自覚している。	深く自覚しており、異文化に接したとき、どのように対応すべきか把握している。	十分自覚しており、異文化に接したとき、自分とは異なる新たな視点として許容できる。	自覚できてはいるが、異文化の他者に自分と同じ文化的規則を求めてしまう。	自覚できていない。異文化に接したとき、文化的差異を識別し不快に感じる。	レポート（思考力・判断力・表現力）	20%
(4) 異文化を自分の世界観とは別の世界観で認識し、異文化に理解・共感を示すことができる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察し、異文化経験を解釈できる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察することができる。	自分の世界観を中心に異文化を見ているが、異文化への理解・共感の姿勢は見受けられる。	自分の世界観のみを通して異文化を見ており、異文化への理解・共感も低い。	レポート（思考力・判断力・表現力）	20%